

Smile 庄内

岡山市立庄内小学校
学校だより No.7
令和4年6月8日発行

1
6月

しょうじき なかよし いっしょうけんめい いのちだいじに

おもいやり算の話

6月初めの朝会で、子どもたちに「おもいやり算」の話をしました。

「+…たすけあう」「-…ひきうける」「×…声をかける」「÷…分けあう」

人を笑顔にする算数。おもいやり算。

これは、私がつくった話ではありません。今から8年ほど前のACジャパンのCMです。よくできたCMです。みんなが、おもいやり算のように行動できたら、ずいぶん住みよい社会になるはずですが、しかし、これが簡単そうで難しいのです。恥ずかしい話、私自身が、わかっているにもかかわらず実行できていません。だから、「私と一緒に、おもいやり算ができる人になりませんか。」という話を子どもたちにはしました。

「+…たすけあう」が難しいのは、自分のことで精一杯だからでしょう。人が大変な時は自分も大変な時が多く、「助けてほしいのはこっちだよ」と言いたくなる時があります。また、「それはあなたの仕事でしょ」と自己責任という言葉で都合よく使って逃げている時もあります。でも、自分のためだけに生きる人生なんてつまらないと思うのです。忙しい中にも何かできることがあるはずですが、無理せず小さなことから「たすけあう」を始めたいと思います。

「-…ひきうける」が難しいのは、それが面倒な仕事であればあるほど「なんで自分が？他にも人はいるでしょ！」という気持ちがわき上がってくるからでしょう。でも、本当に他に人がいるでしょうか。その仕事は自分にしかできない仕事かもしれません。面倒くさそうなその仕事の中に、新たな発見や出会いがあるかもしれません。そう信じて自分にできることは「ひきうけたい」と思います。

「×…声をかける」が難しいのは、どう声をかけてよいかわからなかったり、声をかけることで逆に自分自身が傷ついてしまうことをおそれたりするからでしょう。心配してせっかく声をかけたのに、「はっ？」とか「うるさい！」なんていう返事が返ってきたり、無視されたりすると傷つきますから。でも、大切なことは「その人のために何かできることはないか」という気持ちだと思います。たとえ自分が傷ついたとしても、良心にしたがって行動し、「声をかけたい」と思います。

「÷…分けあう」が難しいのは、心のどこかに「独り占めしたい」「自分が得をしたい」「自分がほめられたい」という気持ちがあるからでしょう。でも、自分がどんな人間になりたいかを考えた時、たとえ一人分の量は減っても、「おいしいね」と誰かと喜び合える方が幸せだと思える人間になりたいのです。分かち合う喜びを感じながら「分けあいたい」と思います。

まず自分自身が、そして庄内小学校のみんなが、おもいやり算を少しずつ実践していけたらいいなと思っています。